

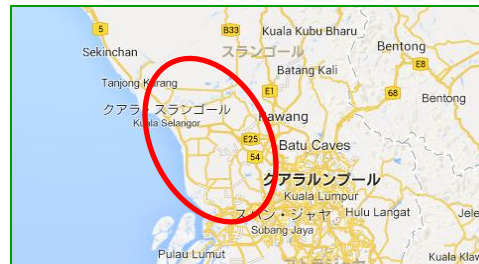
マレーシアにおける浄化槽整備による生活排水処理事業

実施機関・協力機関

(公財)日本環境整備教育センター、(株)ダイキアクシス、
(株)極東技エコンサルタント

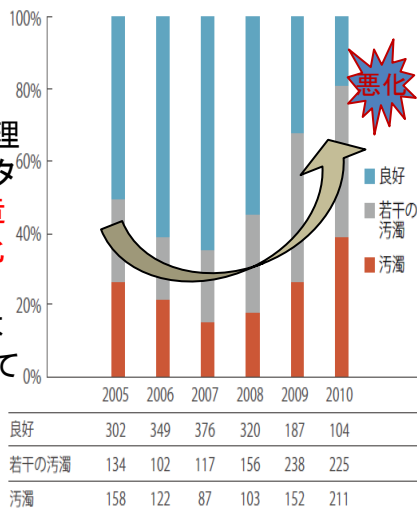
実施場所

マレーシア スランゴール州



事業の背景

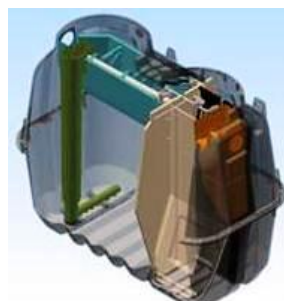
- 河川の水質改善が進んでおらず、有機性水質汚濁が進行しており、最大の原因は生活排水。
- マレーシアにおいて、生活排水処理のためのコミュニティ・セプティックタンク(CST)が稼働しているが、**構造上・維持管理上の不備及び老朽化により処理機能が低下している。**
- CSTについては、放流水質基準はあるものの、実質的に適用がされていない状況。



導入する技術の概要

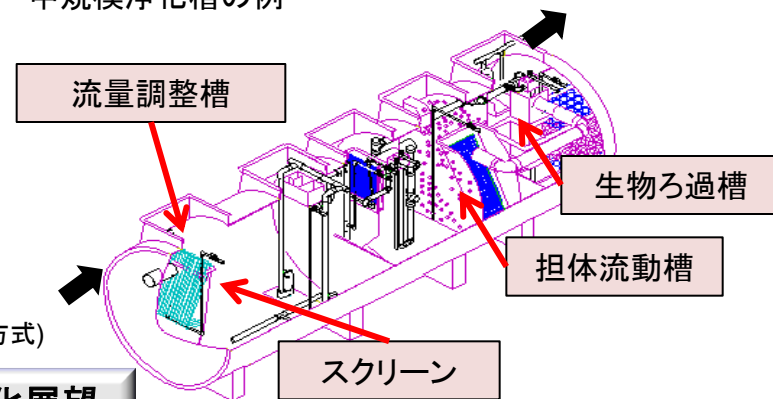
- 日本の浄化槽技術の導入により、現在の嫌気性処理を中心とする分散型汚水処理技術から、より**処理性能の高い好気性処理の処理技術にシフト**する。

小型浄化槽の例



ダイキ浄化槽 XE型(担体流動方式)

中規模浄化槽の例



事業の概要

- **既存のCSTを日本技術である浄化槽に転換**し、地域の衛生及び水環境の改善を図る。
- F/S調査(H26実施)ではスランゴール州にあるCSTを浄化槽に転換し、処理機能等を実証する事を目的に、以下についての調査を実施。
 - ・実証試験予定地の確認・建設候補地の選定
 - ・家庭での使用水量、流入水の水量・水質、放流水の水質、配水管の接続状況等の調査
 - ・関係政府・企業との調整
 - ・競合現地メーカーの現状調査
 - ・ビジネスモデルの検討

期待される成果・事業化展望

- **期待される効果** : 浄化槽の導入により生活排水が適切に処理され、衛生環境及び水環境が改善される。CSTから浄化槽への更新が進み、分散型汚水処理技術のレベルアップが期待される。
- **ビジネスモデルの概要** : 日本企業と現地企業が協力し、CSTから浄化槽への更新ビジネスを展開するとともに、それと併行して商用施設への浄化槽ビジネスも展開する。